

議事録／第3回

第二次鹿島市地域福祉(活動)計画策定委員会

日 時：平成29年10月26日(木)15時～16時40分

場 所：鹿島新世紀センター2階会議室

出席者：委員13人(欠席1人)、事務局6人(市3人、社協3人)

庁内委員6人 計25人

- 1 開 会
- 2 あいさつ(染川課長)
- 3 第2回第二次鹿島市地域福祉(活動)計画策定委員会議事録の承認について
- 4 議 事

1) 第2回策定委員会での修正について

①第1章のイメージ図について

〔議 長〕 ・事務局より説明を。

〔事務局〕 ・説明

～全員賛同～

②第2章の修正箇所について

〔議 長〕 ・事務局より説明を。

〔事務局〕 ・説明

～全員賛同～

2) 第2章 地域福祉(活動)計画(案)について

①2「利用者本位」の福祉サービスを提供する

(1) 多様な福祉サービス提供事業者の育成

〔議 長〕 ・事務局より説明を。

〔事務局〕 ・説明

〔A 委員〕 ・P9の具体的な取組の最初の1文は「社会福祉協議会は」ではなく、「社会福祉協議会に対して」が文脈的にはよいのでは。

〔事務局〕 ・修正する。

〔A 委員〕 ・地域包括支援センターはここにあげなくてよいのか。

〔事務局〕 ・地域包括支援センターは市の機関であり、事業者ではないのであげてない。

〔B 委員〕 ・今は想定外のことが起こる世の中である。それに対応できるように、経験者が活躍できるような体制づくりをしてほしい。

〔副議長〕 ・佐賀市にはサポーターみたいな補助的役割を置いている。

〔事務局〕 ・P9の具体的な取組の6番目に記載している。ボランティアについては、P15に記載している。

(2) 質の高いサービス供給の仕組みづくり

〔議 長〕 ・事務局より説明を。

- 〔事務局〕 ・説明
- 〔議長〕 ・社協の3つの事業を入れないのはなぜか。
- 〔峰松〕 ・介護保険制度事業は本計画にはそぐわない。通所介護サービスは独自事業であり、社協だけが行っている事業ではないので削除した。
- 〔副議長〕 ・アンケート調査の情報の入手状況で、前回よりアップしているが、「入手できている」が少ない。そこはどのように分析しているか。
- 〔事務局〕 ・公的機関としてはある程度は発信している。民間も発信している。ただ、そのような状況にならないと入手しようとならないのも事実であり、受信者の問題でもある。市報やHPで知らせており、今後も続けていく。
- 〔C委員〕 ・市報は新聞折込か。
- 〔事務局〕 ・新聞折込が基本だが、希望者には郵送している。
- 〔C委員〕 ・郵送してくれることを知らない市民もいるのでは。
- 〔事務局〕 ・市報担当課の企画課に伝える。
- 〔C委員〕 ・新聞をとらない人が増えているのも問題。
- 〔事務局〕 ・市HPにはPDFで掲載している。もちろん、公民館等にも設置している。
- 〔議長〕 ・啓発事業には工夫してもらいたい。
- 〔事務局〕 ・取り組まなければいけないと思う。

(3) 情報提供体制の整備充実

- 〔議長〕 ・事務局より説明を。
- 〔事務局〕 ・説明
- 〔D委員〕 ・市報はここには入らないのか。
- 〔事務局〕 ・庁内委員にも入っていない。市報はのせたほうがよいと思う。
- 〔議長〕 ・ぜひのせてほしい。
- 〔議長〕 ・現状と課題の表示方法を前のページと合わせたほうがよいのでは。
～事務局了承～

②3 「地域福祉力」を高める

(1) ボランティアの育成

- 〔議長〕 ・事務局より説明を。
- 〔事務局〕 ・説明
- 〔議長〕 ・ボランティアコーディネーターは社協にいるのか。
- 〔社協〕 ・1人職員がおり、社協の事業の柱の1つとして行っている。
- 〔副議長〕 ・社協だよりのことか。
- 〔社協〕 ・鹿島市にはボランティア活動誌がないため、今年から取り組みたい。
- 〔議長〕 ・サポーター事業とは。
- 〔社協〕 ・市社協ではなく、県が行っている事業。
- 〔議長〕 ・語句説明に追加してほしい。
～事務局了承～

- 〔E委員〕 ・精神障がいを理解してもらうための研修はないのか。
- 〔議長〕 ・確かに理解が浸透していない。どこかに入れたほうがよい。

- 〔社 協〕 ・ P16 の 4 助の中の④の 2 番目に入っている。主な事業の中のボランティア人材育成（ボランティア人財バンク）の中でも取り組んでいく。
- 〔C 委員〕 ・ 子どもへのボランティア精神の植え付けも大事では。
- 〔松 本〕 ・ 障がいをもった方の疑似体験をできる道具をつけてもらう授業はある。
- 〔C 委員〕 ・ ボランティア活動をさせることはないのか。
- 〔松 本〕 ・ 清掃活動をしている学校もある。学校毎に選んでされている。
- 〔事務局〕 ・ P20 の福祉教育の中でも記載している。

(2) 地域課題を解決できる仕組みづくり

- 〔議長〕 ・ 事務局より説明を。
- 〔事務局〕 ・ 説明
- 〔議長〕 ・ 市の具体的な取組の 2 番目は具体的にどのような取組か。
- 〔社 協〕 ・ 地域包括ケアシステムの第 1 歩でもある。市としての事業として実施してもらえばありがたい。
- 〔事務局〕 ・ 前回の計画も同様の記載であった。表現方法を変えるなど考える。
- 〔B 委員〕 ・ 子どもが地域に溶け込むことは良い。伝承芸能の取組みを行ったが、学校に相談したら反応が薄かった。
- 〔事務局〕 ・ 地域によっては子ども浮立がある。市としては伝承芸能を推進している。
- 〔事務局〕 ・ 琴路神社の祭の時は新町の子供は学校が休みとなる。学校は地域に協力的ではないか。
- 〔B 委員〕 ・ 市から学校に子ども浮立に協力するよう依頼できないか。
- 〔事務局〕 ・ できない。あくまでも部落での話し合いと方針ではないか。

(3) 福祉教育

- 〔議長〕 ・ 事務局より説明を。
- 〔事務局〕 ・ 説明
- 〔議長〕 ・ 「障害」の表現が漢字とひらがながある。合わせてほしい。
～事務局了承～
- 〔副議長〕 ・ インクルーシブとは。
- 〔事務局〕 ・ 障がいがある児童もそうでない児童も一緒に学ぶこと。
- 〔議長〕 ・ UD とは。
- 〔事務局〕 ・ ユニバーサルデザイン。
- 〔C 委員〕 ・ ボランティア講座で、障がい児と過ごす講座があり、市内の高校生の参加が少なかった。市や教育委員会からも声かけをしてほしい。
- 〔事務局〕 ・ 広報活動は依頼されればできる部分もある。教育委員会に言ってもできると思う。開催されていたことを把握していなかった市もよくないが、今後は情報提供をお願いしたい。
- 〔議長〕 ・ ゲストティーチャーとは。
- 〔事務局〕 ・ 田植え体験の時に指導いただく農家の方等の地域の人達。語句説明に入れたい。

(4) 防災・防犯体制の整備

- 〔議長〕 ・事務局より説明を。
- 〔事務局〕 ・説明
- 〔B 委員〕 ・自主防災組織は各地区に整備されているが、各々の活動報告はなされているのか。
- 〔山 口〕 ・9割の地域で組織されている。訓練しているところもあればしていないところもある。ここ2年は年に1回アンケート調査をしている。後日提供できる。
- 〔議長〕 ・アンケート結果を活用しているのか。
- 〔山 口〕 ・今のところしていない。よい事例は他に伝えるなどしていきたい。
- 〔B 委員〕 ・役員が度々替わる。任期をずらす等して全員が一度に替わることがないようにならないか。
- 〔山 口〕 ・だいたい区長がトップ。その区長を補佐する役を作ればよいが。
- 〔A 委員〕 ・区長をしているが、具体的な取組みは実質ない。良い事例があれば先ほど出たように教えてほしい。
- 〔F 委員〕 ・青パトはボランティアか。これは計画に入らないのか。
- 〔事務局〕 ・青パトは市職員。講習会を受けて巡回している。黄色のジャンパーは見守り隊で防犯活動をしている。主な事業に入れる。
- 〔議長〕 ・療育園から何かないか。
- 〔G 委員〕 ・相模原の事件を受けて防犯カメラを設置し、さすまたを備えるようになった。また、大雨時に土砂崩れがあった際に地元区長がいち早く対応いただき有難かった。防災訓練も実施して備えはしているが、今後も地元と連携していきたい。
- 〔議長〕 ・大地震の時の避難場所はあるか。
- 〔G 委員〕 ・園を解放するので地域にも使ってもらいたい。
- 〔山 口〕 ・アンケート結果で半数近くが避難場所を知らないとの結果だが、梅雨前の市報に避難場所等を掲載している。
- 〔事務局〕 ・語句説明のところに避難場所も入れてよい。
- 〔事務局〕 ・市の具体的な取組に記載しているが、より具体的に記載するようにする。
- (3) その他 ※ 特になし。

5 その他

6 閉 会